

(学校番号050) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東大成小学校】

① 4月28日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において5pt向上させる。(令和4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均を上回る。)	⇒ タブレット型コンピュータを活用して、習熟度に合わせた個別最適な学びを実現する。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より算数の「思考・判断・表現」において1.5pt向上させる。(令和4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」においてさいたま市平均を上回る。)	⇒ 小グループで考えを伝え合う時間を設定したり、オウリング等のプレゼンテーションソフトを活用したりすることで豊かな表現力を養う。また、他者の意見と自身の考えを比較・検討する習慣を身に付けさせることで深い学びにつなげる。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を93%以上にする。	⇒ 「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」を通し、主体的・対話的で深い学びにつなげる。

③ 9月2日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	見直し無し	⇒
思考・判断・表現	見直し無し	⇒
主体的に学習に取り組む態度	見直し無し	⇒

② 8月23日 全国学力・学習状況調査結果	
全国学力・学習状況調査結果・分析	

④ 2月17日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

⑤ 2月24日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能		D
思考・判断・表現		D
主体的に学習に取り組む態度		A

⑥ 3月10日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	中学年は比較的知識・技能の学習内容が定着しているようだが、学年が上がるにつれ基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が見られている。そのため、令和5年度は基礎学カタイム(業前活動)を年間18回以上(前年度比10回増)実施し、「課題克服応援シート」や「MEXTCBT」、その他デジタル教材等を効果的に活用し、当該年度の学習内容及び既習学習のより一層の定着を図っていく。また、個人差が大きいため、『個別最適な学び』の実現のため、「指導の個別化」と「学習の個性化」を図り、個に応じた指導をより一層充実させる。
思考・判断・表現	中学年は思考・判断・表現に該当する「活用問題」の正答率が高いが、学年が上がるにつれ正答率が大きく下がっている。その一因として、問題を正確に読み取る力、「読解力」が根底にあると考えられる。そのため、学習活動全般において主体的に読む活動を取り入れたり、解法の根拠となる文献や図表、データ等から答えを導いていく力を育てたりすること等を通して読解力の向上を図っていく。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度全国学力・学習状況調査(生活習慣や学習環境に関する質問紙調査)結果では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」といった質問に対する肯定的な回答は90%以上であった。引き続きICT機器も効果的に活用した「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を行うことで、児童の主体的・対話的で深い学びを取り入れた「さいたま市『よい授業』」を展開していく。

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)